



東京大学グローバルCOEプログラム

ゲノム情報に基づく先端医療の教育研究拠点

オーダーメイド医療の実現と感染症克服を目指して

GCOE 特別セミナー
＜キャリアパス支援セミナー＞
企業・団体紹介シリーズ

白金キャリア プラットフォーム

第6回

2011年 6月7日(火)

15:00 - 17:15

東京大学医科学研究所 1号館講堂

参加無料・事前登録不要

ショートレクチャー

1 「理系大学院修了者のキャリアパス -現状と課題 パート2」

三浦 有紀子 東京大学男女共同参画室 推進ディレクター

2 「抗体技術の俯瞰と最近の進歩」

山川 彰夫 東京大学医科学研究所 学術アドバイザー長 特任教授

「日本発の抗体医薬品第一号「アクテムラ」

－免疫難病の克服を目指した30年－



中外製薬

大杉 義征 中外製薬株式会社



学術情報部リサーチアドバイザー (薬学博士)

ファシリテーター： 三浦 有紀子 東京大学男女共同参画室

山川 彰夫 東京大学医科学研究所

東大医科学研究所&先端科学技術研究センターGCOE <http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/gcoe/index.html>

問い合わせ先：東京大学医科学研究所GCOE推進室 Email: gcoe@ims.u-tokyo.ac.jp TEL: 03-6409-2028

東京都港区白金台4-6-1 (東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線白金台駅2番出口から徒歩3分)

【概 要】

東京大学医科学研究所&先端科学技術研究センターのグローバルCOE プログラム (GCOE) では、ミッションの一つであるグローバルな医療課題 に対して取り組むことのできる世界的な広い視野を持った多様な「人財」育成の一環として、キャリアパス支援セミナー「白金キャリアプラットフォーム：(企業・団体紹介シリーズ)」を開催しています。

今回の第6回では、中外製薬株式会社学術情報部リサーチアドバイザーの大杉義征博士より、ご自身が長年取り組まれたIL6とヒト化抗IL6受容体抗体薬(アクテムラ)の研究開発のご経験と中外製薬の研究開発方針の紹介に加えて、日本のバイオ・ライフ系の学生、若手研究者に期待するメッセージも含めて、ご講演をお願いします。

中外製薬株式会社は、ホームページによると「世界に通用する日本のトップ製薬企業を目指して、『革新的な医薬品とサービスの提供を通じて新しい価値を創造し、世界の医療と人々の健康に貢献します』というミッションのもと、患者さん・消費者の皆さまを最優先に考え行動している企業」です。(永山治代表取締役社長のメッセージ等) 1925年中外新薬商会の創立から1927年より医薬品製造に着手し、1943年に中外製薬株式会社となり、エポジン(エリスロポイエチン)、ノイトロジン(ヒトGCSF)などの開発・販売を行ってきました。2002年には、戦略アライアンスに基づき、中外製薬と日本ロシュ(株)が統合し、ロシュ・ホールディング・リミティッド等が親会社となり、スイスRoche社、USAのGenentech社等からなるグローバル製薬企業グループである、Roche グループの重要な一員となって、今日まで発展を遂げています。Rocheグループの一員となり、インフルエンザ薬タミフルや抗がん剤のハーセプチン・リツキサン、PEGインターフェロンなど多彩な薬剤のラインナップを保持することになる一方、大阪大学岸本忠三教授研究室の研究シーズを発展させた日本発抗体薬であるアクテムラ(ヒト化抗IL6受容体モノクローナル抗体)を2005年にキャスルマン病に対する薬剤として発売、その後日米欧より抗リウマチ薬としての効能承認を取得しています。大杉博士は、IL6の研究論文が岸本研より発表された直ぐからその将来性に注目され、様々なトライアンドエラーを重ねながら、研究開発のすべてのプロセスに当事者の一人として関わってこられました。サイトカインや阻害剤でなく、受容体モノクローナル抗体とそのhumanizationにという当時としては時代の先端技術の応用によるシーズの薬剤候補への「進化とブラッシュアップ」に関わり、その後のアクテムラの研究開発から認可・申請・市販・適応拡大など、企業の研究開発者として実際の成功例の各ステップに関わられたというまれなご体験をされたと言えるでしょう。ご講演内容は体験に沿ったお話を中心に、学生、若手研究者へのメッセージも含めてお願いしています。

また、恒例のキャリアパスに関する基礎的なリテラシーに資するショートレクチャーとして、今回はシリーズファシリテーターの三浦有紀子氏より、シリーズ第1回の「理系大学院修了者のキャリアパス」に関する分析のパート2として、バイオ系ライフ系の雇用に関する現状と課題、大学・研究所における「団塊の世代」の定年と「少子化」の影響、今後の人材グローバル化などについてお話を頂く予定です。世話人からは、シリーズ第2回の低分子化合物系の分子標的薬のレビューに引き続き、今回は「抗体技術」に注目した俯瞰的レビューを提示する予定です。

今までの回の概要でも述べたように、これをきっかけに新規の共同研究 や連携や将来のリクルートにも役立つことが期待されます。将来アカデミアや 別の業界・企業に進む人財にとっても、業界のリーディングカンパニー等についての知識や人脈を持つことは、将来の効果的な連携(場合によっては効果的な競争)等にとっては欠かせないことであり、このシリーズはいわば「究極の就活セミナー」といえますが、あくまでもキャリアデベロップメントを目的としています。キャリアデベロップメントとしては、経済学のような「マクロ」・「ミクロ」の他個人と家族レベルの「パーソナル」を加えた3つのレベルと時間軸における「キャリア・ライフ・ステージ」を考慮した分析と戦略が必要であるという立場から企画を構成しています。

この白金キャンパスの「新しいプラットフォーム」は、”Filling the Gaps among different Communities”のキーワードの元、学生・若手にとってのキャリアパス支援とシニアの研究者・医療従事者と企業・団体の間の相互のインターアクションの「場」を提供し、ライフイノベーションの推進の為のステップボードとなる事も意図しております。白金キャンパスの学生・若手をはじめとする研究者・医師・医療スタッフの他にも、東大他部局や学外のアカデミア・産業界・行政・メディア、その他のご所属の学生および社会人などの多様な方々のご参加を歓迎いたします。事前の質問要望があれば世話人宛にお願い致します。

(文責：世話人 山川彰夫 学術アドバイザー長、GCOE推進委員)